

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 4日から5日にかけて、低気圧がオホーツク海から千島近海に進む。また、高気圧が黄海から日本の東へ移動する。
- 6日から7日にかけて、低気圧が日本海と本州南岸を東へ進む。
- 8日は、低気圧が北海道付近から千島近海へ進み、高気圧が本州付近へ移動する。

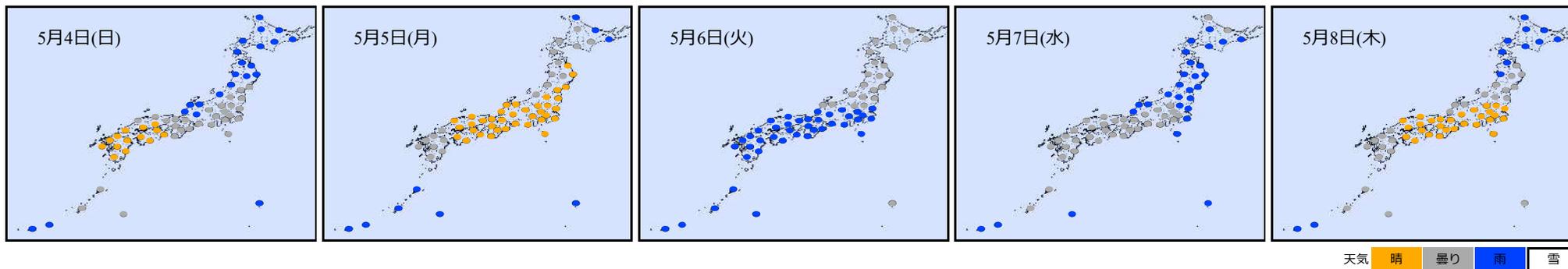
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

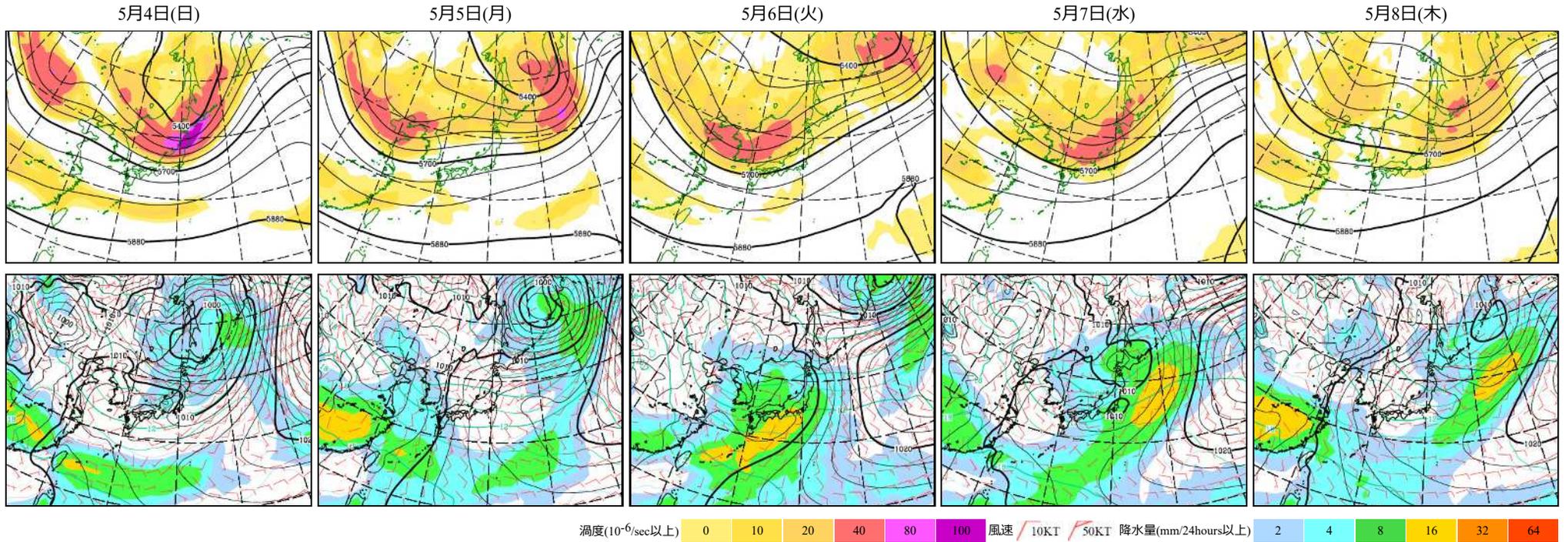
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

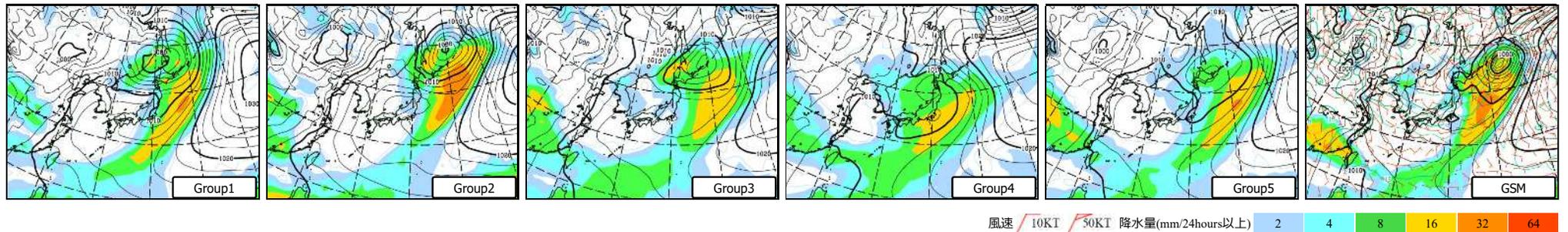


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雨の降る日が多いが、5日は晴れる所がある。
- 東日本太平洋側と西日本は、晴れや曇りの日が多いが、6日から7日は曇りや雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月7日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、4日はオホーツク海で発達する低気圧の東進が少し早くなった。6日から7日にかけて日本付近を通過する気圧の谷は、日本海を進む低気圧と南岸を進む低気圧がそれぞれ明瞭になった。
- スプレッドは、比較的小さいが期間の後半は特定高度線のばらつきが大きくなる。
- 6日から7日の低気圧の位置にバラツキがあるものの各モデル間の差は小さくなり、降水確率ガイダンスの値は、6日に本州付近を中心に高くなった所が多い。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、最新のENSを基に考える。